

2012 年度第 2 四半期 決算説明会 Q&A

Q: 当第 2 四半期の生産高を教えてください。

A: 1,777 億円です。

Q: 当上期の利益について、7 月 31 日に発表された計画と実績の増減分析を教えてください。

A: 操業度益が約+50 億円、合理化効果が約▲15 億円、品種構成その他が約▲9 億円と推計しています。

Q: 受注は今後どのように推移する見通しですか。

A: 当第 3 四半期はクリスマス商戦向けで堅調を維持すると見えています。

Q: 当下期の四半期毎の売上見通しを教えてください。

A: 当第 3 四半期は 1,838 億円、当第 4 四半期は 1,665 億円の計画です。

Q: 設備稼働率の見通しを教えてください。

A: 全社の稼働率は、当第 2 四半期の実績は 100%で、当下期も 100%を計画しています。

Q: 設備投資の増額により能力増強する製品と背景を教えてください。

A: 小型・大容量品の需要が高まっているため、チップ積層セラミックコンデンサの能力を増強します。

Q: 当第 2 四半期でたな卸資産が増えている理由を教えてください。当期末時点のたな卸資産はどのぐらいになる見通しですか。

A: 当第 3 四半期の需要増に備え、チップ積層セラミックコンデンサと通信モジュールが増加しました。当期末時点のたな卸資産は、春先の需要増に備え、当第 2 四半期末と同程度を維持する計画です。

Q: 主要電子機器（携帯電話、PC、薄型テレビ）の台数見通しを教えてください。

A: 携帯電話は前年度比約 5 %増、PC（タブレット含む）は約 13%増、薄型テレビは横ばいを見込んでいます。

当 Q & A に記載されている、当社又は当社グループに関する見通し、計画、方針、戦略、予定、判断などのうち既に確定した事実でない記載は、将来の業績に関する見通しです。将来の業績の見通しは、現時点で入手可能な情報と合理的と判断する一定の前提に基づき当社グループが予測したものです。実際の業績は、さまざまなリスク要因や不確実な要素により業績見通しと大きく異なる可能性があります、これらの業績見通しに過度に依存しないようお願いいたします。また、新たな情報、将来の現象、その他の結果に関わらず、当社が業績見通しを常に見直すとは限りません。実際の業績に影響を与えるリスク要因や不確実な要素には、以下のものが含まれます。

(1) 当社の事業を取り巻く経済情勢、電子機器及び電子部品の市場動向、需給環境、価格変動、(2) 原材料等の価格変動及び供給不足、(3) 為替レートの変動、(4) 変化の激しい電子部品市場の技術革新に対応できる新製品を安定的に提供し、顧客が満足できる製品やサービスを当社グループが設計、開発し続けていく能力、(5) 当社グループが保有する金融資産の時価の変動、(6) 各国における法規制、諸制度及び社会情勢などの当社グループの事業運営に係る環境の急激な変化、(7) 偶発事象の発生、などです。ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

当 Q & A に記載されている将来予想に関する記述についてこれらの内容を更新し公表する責任を負いません。